

首里城正殿重修図に関する基礎的研究（2）

麻生伸一¹⁾・森達也²⁾

はじめに

本論文は『沖縄県立芸術大学紀要』No.31（2023 年）で発表した「首里城正殿重修図に関する基礎的研究 (1)」¹⁾に続くものである。

首里城復元の基礎史料である二つの史料、『乾隆三拾三年戊子／百浦添御殿普請付御繪圖并御材木寸法記』²⁾と「道光式拾六年／百浦添御普請繪圖帳／共八冊」³⁾について、描かれた絵図や書かれた文字から、両史料の関係を検討することを目的とする。

なお、「基礎的研究 (1)」において、『寸法記』は近代の工業紙の薄紙を用いて、原典の上に紙を重ねて図だけでなく字体までも精密に透写した可能性が高く、原典の様相を極めて正確に写した複製品であると思われること、『絵図帳』は史料原本である可能性が高いこと、『寸法記』の透写元となった史料と『絵図帳』は類似の絵図を写して作成されただろうこと、ただし、『寸法記』の透写元となった史料と『絵図帳』は別の史料であることなどを指摘した。

紙幅の関係から「基礎的研究 (1)」ではすべての絵図を分析できなかったため、引き続き本論文を執筆することとした。あらたな知見は決して多くないが、それでも一枚一枚の絵図および文字の比較は有意義であると考えするため、結論が一部重なることを承知のうえで比較結果を公表し、考察を加える。

なお、本論文に掲載する図の番号は「基礎的研究 (1)」[表 2]⁴⁾の通りである。

[表 1] 『寸法記』『絵図帳』掲載図一覧

図番号	名称	「絵図帳」鉛筆書き数字
1	[無題] 正殿図	三
2	玻豊絵圖 [右] (『絵図帳』は唐玻豊絵圖)	四
3	玻豊絵圖 [左] (『絵図帳』は唐玻豊絵圖)	
4	[龍柱図]	五
5	御差床之圖	
6	臺御差床之圖	

1) 麻生伸一（琉球大学）
2) 森 達也（沖縄県立芸術大学）
3) 麻生伸一・森達也「首里城正殿重修図に関する基礎的研究 (1)」『沖縄県立芸術大学紀要』No.31、2023 年、19～33 頁。以下、「基礎的研究 (1)」と略記する。
4) 「／」は改行を示す。沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館蔵。以下、『寸法記』と略記する。
5) 尚家文書五〇〇号、那覇市歴史博物館蔵。以下、『絵図帳』と略記する。
6) 「基礎的研究 (1)」(前稿)掲載の[表 2]をもとに字体を史料に合わせて修正した。その他、次の通り文字を修正した。図番号 4 は前稿では「向拝図」としてきたが、本稿より「龍柱図」とした。図番号 11 は前稿では「唐玻豊真正面并五はい坪天井圖／唐玻豊左右之坪天井圖」としてきたが、本稿より「唐玻豊真正面之五はい坪天井圖／唐玻豊左右之坪天井圖」とした。図番号 26 は前稿では「居創柱上下壁付之寸法」としてきたが、本稿より「居創柱上下壁付之寸法」とした。

図番号	名称	「絵図帳」鉛筆書き数字
7	御床之圖	六
8	おちよくい之圖	
9	おちよくい引戸之圖	七
10	眞正面よち之圖	
11	唐玻豊眞正面之五はい坪天井圖／唐玻豊左右之坪天井圖	八
12	下庫理差圖 [右]	
13	下庫理差圖 [左]	九
14	大庫理御差床眞正面之圖	
15	同御側之圖	十
16	大庫理御床之圖 [右]	
17	大庫理御床之圖 [左]	十一
18	臺御差床之圖	
19	おせんみこちや御床之圖	十二
20	二階連子之圖	
21	同連子之圖	十三
22	二階差圖 [右]	
23	二階差圖 [左]	十四
24	三階之差圖	
25	身屋柱上下壁付之寸法	
26	扁創柱上下壁付之寸法	

*作表に際して『寸法記』『絵図帳』を参考にした。

図番号 6 臺御差床之圖

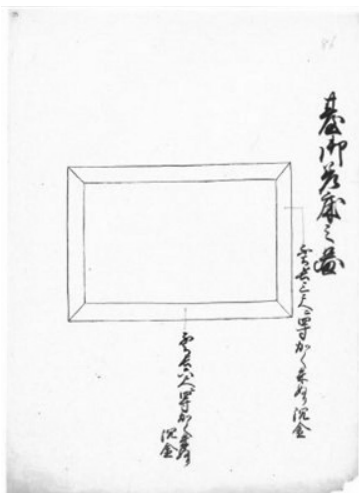


図 1 図番号 6-1 『寸法記』

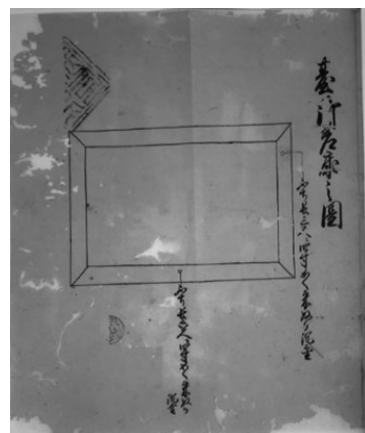


図 2 図番号 6-2 『絵図帳』

[絵図の比較]

『寸法記』(図1)と『絵図帳』(図2)の図にはほとんど差は見られず、2枚の図を重ね合わせた結果、ほぼ重なることが確認された。線には若干のずれが認められる部分もあるが、長方形の四隅はきちんと重なっている。また、どちらの図の線も、定規などを用いて一気に引いたものではなく、手描きによる短い線を繋いで長い線としていることが観察できる。

[文字の比較]

文字はすべて同じであるため、両者のあいだで意味の相違はみられない。

[表1] 図番号6の比較

- *文字翻刻の凡例：基本的に旧漢字のままで全文翻刻した。
 - *「ヒ」など略字は元の字に戻し、変体仮名はひらがなとした。
 - *『寸法記』の透写できていない文字は文字数に拠らず「…」で示した。
 - *両史料の異同はいずれかに太字下線で示した。
 - *修正された文字の内、消した文字が判別可能な場合「 」の中に記載し、修正された文字を続けて書いた。
- その際、消去文字・修正文字に下線を付している。
- *「コへ」など多く記さされる文字は一つのみ掲載して残りは省略した。
 - *破れなどにより判読できない箇所、予想ができる文字は〈 〉の中に記した。

[表2] 図番号6の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
6-1	臺御差床之圖	臺御差床之圖
6-2	ふち長三尺二四寸かく朱ぬり沈金	ふち長三尺二四寸かく朱ぬり沈金
6-3	ふち長六寸二四寸かく朱ぬり沈金	ふち長六寸二四寸かく朱ぬり沈金

図番号7 御床之図



図3 図番号7-1『寸法記』

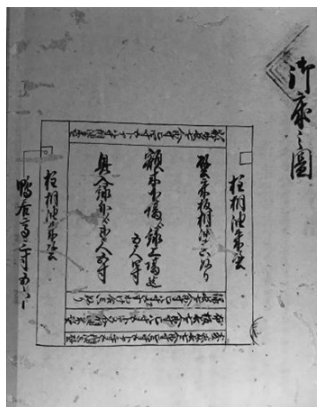


図4 図番号7-2『絵図帳』

〔絵図の比較〕

『寸法記』(図3)と『絵図帳』(図4)の図にはほとんど差はなく、2枚の図を重ね合わせた結果、ほぼ重なることが確認された。ただし、左右の柱の上部に外側から四角く切り込まれている「鴨居」については、『絵図帳』(図4)ではきちんと正確な四角ではなく、やや傾いで描かれている。図の透写の精度や丁寧さは『寸法記』(図3)が『絵図帳』(図4)を上回っていることが明らかである。

〔文字の比較〕

文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。一部の文字に漢字と仮名の違いがある。

〔表3〕 図番号7の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
7-1	御床之圖	御床之圖
7-2	柱桐油朱塗	柱桐油朱塗
7-3	壁床板桐油黄ぬり	壁床板桐油黄ぬり
7-4	額木下場より縁上場迄五尺四寸	額木下場より縁上場迄五尺四寸
7-5	奥入縁外より式尺五寸	奥入縁外より式尺五寸
7-6	柱桐油朱塗	柱桐油朱塗
7-7	鴨居高三寸五分	鴨居高三寸五分
7-8	額木長七尺貳寸幅四寸五分厚八寸桐油朱 <u>ぬり</u>	額木長七尺貳寸幅四寸五分厚八寸桐油朱 <u>塗</u>
7-9	縁長七尺貳寸幅八寸厚五寸かけ合 <u>眞ぬり</u>	縁長七尺貳寸幅八寸厚五寸かけ合 <u>眞ぬり</u>
7-10	布板長七尺貳寸幅八寸五分厚五分桐油朱 <u>ぬり</u>	布板長七尺貳寸幅八寸五分厚五分桐油朱 <u>塗</u>
7-11	寄せ敷長七尺貳寸幅六寸五分厚三寸五分桐油 <u>眞ぬり</u>	寄せ敷長七尺貳寸幅六寸五分厚三寸五分桐油 <u>眞塗</u>

図番号8 おちよくい之図

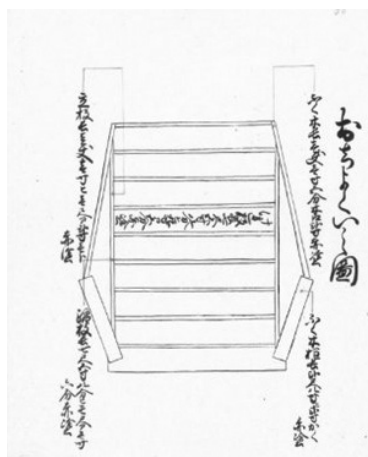


図5 図番号8-1『寸法記』

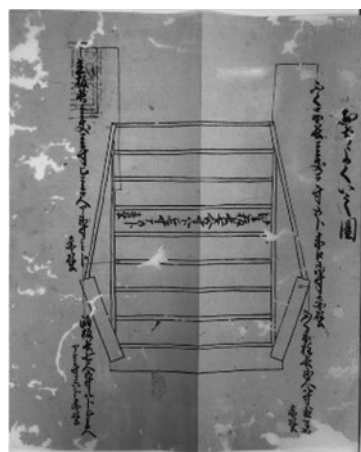


図6 図番号8-2『絵図帳』

[絵図の比較]

『寸法記』(図5)と『絵図帳』(図6)の2枚の図を重ね合わせた結果、線が僅かにずれる部分はあるものの、ほぼ重なることが確認された。

[文字の比較]

文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。一部の文字に漢字と仮名の違いがある。

8-3で『絵図帳』は紙幅の破損により一部読めない箇所がある。『寸法記』を踏まえるとおそらく「く」であろう。

[表4] 図番号8の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
8-1	おちよくい之圖	おちよくい之圖
8-2	ふく木長壹丈壹寸五分木口貳寸赤塗	ふく木長壹丈壹寸五分木口貳寸赤塗
8-3	ふく木柱長貳尺八寸貳寸かく赤塗	ふく木柱長貳尺八寸貳寸か「く」赤塗
8-4	けれ板長七尺五寸八分幅九寸厚五分赤塗	けれ板長七尺五寸八分幅九寸厚五分赤塗
8-5	立板長壹丈壹寸幅壹尺厚貳寸壹分赤塗	立板長壹丈壹寸幅壹尺厚貳寸壹分赤塗
8-6	踏板長七尺五寸八分幅壹尺厚壹寸六分赤塗	踏板長七尺五寸八分幅壹尺厚壹寸六分赤塗

図番号9 おちよくい引戸之圖

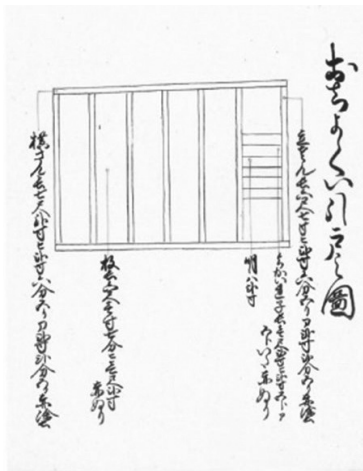


図7 図番号9-1『寸法記』



図8 図番号9-2『絵図帳』

[絵図の比較]

『寸法記』(図7)と『絵図帳』(図8)の2枚の図を重ねた結果、線が僅かにずれる部分はあるものの、ほぼ重なることが確認された。

[文字の比較]

文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。一部の文字に漢字と仮名の違いがある。

[表5] 図番号9の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
9-1	おちよくい引戸之圖	おちよくい引戸之圖
9-2	立さん長六尺七寸幅貳寸六分五厘厚貳寸貳分五厘赤塗	立さん長六尺七寸幅貳寸六分五厘厚貳寸貳分五厘赤塗
9-3	ちかい連子長壹尺貳寸幅貳寸五分厚五分 <u>いた</u> 赤ぬり	ちかい連子長壹尺貳寸幅貳寸五分厚五分 <u>板</u> 赤ぬり
9-4	明ハ貳寸	明ハ貳寸
9-5	板長六尺壹寸七分幅壹尺貳寸赤 <u>ぬり</u>	板長六尺壹寸七分幅壹尺貳寸赤 <u>塗</u>
9-6	横さん長七尺貳寸幅貳寸六分五厘厚貳寸貳分五厘赤塗	横さん長七尺貳寸幅貳寸六分五厘厚貳寸貳分五厘赤塗

図番号 10 真正面よち之圖



図9 図番号 10-1『寸法記』

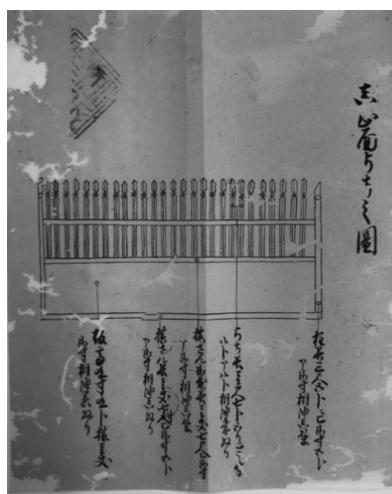


図10 図番号 10-2『絵図帳』

[絵図の比較]

『寸法記』(図9)と『絵図帳』(図10)の図を重ね合わせて確認したところ、両者の図の線がほぼ重なることが確認された。唯一の相違点は、左端の柱が『寸法記』(図9)の図の方がやや長く描かれていることである。

[文字の比較]

一部の文字に漢字と仮名の違いがあるが、おおよそ文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。ただし、10-4を見ると、長さが「壹丈七寸」(『寸法記』)と「壹丈七尺」(『絵図帳』)とある点が異なる。10-5『絵図帳』の長さの部分「壹丈七尺」を「壹丈七寸」

と訂正しているため、10-4 は『絵図帳』の「寸」が誤植であろう。

〔表6〕 図番号 10 の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
10-1	真正面よち之圖	真正面よち之圖
10-2	柱長三尺五分二幅式寸五分厚式寸桐油眞ぬり	柱長三尺五分二幅式寸五分厚式寸桐油眞塗
10-3	よち長壹尺七分五り幅壹寸八分厚八分桐油朱ぬり	よち長壹尺七分五り幅壹寸八分厚八分桐油朱ぬり
10-4	横さん式本長壹丈七寸幅式寸厚式寸桐油眞ぬり	横さん式本長壹丈七尺幅式寸厚式寸桐油眞塗
10-5	横さん長壹丈七寸幅式寸五分厚式寸桐油眞ぬり	横さん長壹丈七[尺]寸幅式寸五分厚式寸桐油眞ぬり
10-6	板高九寸九分横壹丈式寸桐油黄ぬり	板高九寸九分横壹丈式寸桐油黄ぬり

図番号 11 唐玻豊真正面之五はい坪天井圖／唐玻豊左右之坪天井圖

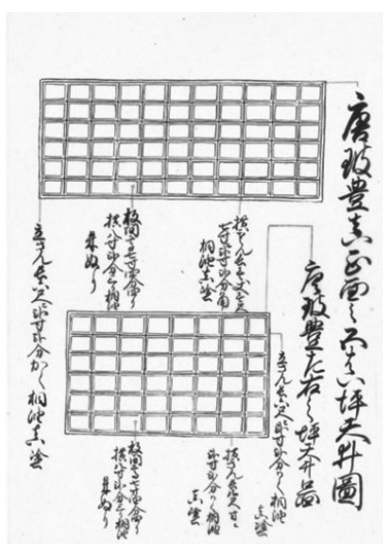


図 11 図番号 11-1 『寸法記』

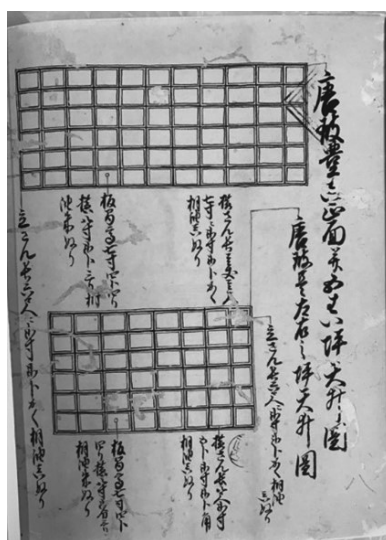


図 12 図番号 11-2 『絵図帳』

〔絵図の比較〕

『寸法記』（図 11）と『絵図帳』（図 12）の 2 枚の図を重ね合わせて確認したところ、両者の図の線がほぼ重なることが確認された。また、上の図と下の図の位置関係もまったく同じであることが明らかとなった。どちらの図も一枚の紙に二つの図が描かれていた原図を透写して上図と下図を同時に透写していたと推定される。

〔文字の比較〕

本図にはいくつかの違いが見られる。

まずは図のタイトルの相違である。11-1 について「唐玻豊真正面之五はい坪天井圖」とする『寸法記』と、「唐玻豊正面并五はい坪天井圖」とする『絵図帳』である。唐玻豊前

の階段の天井と考えるなら、『寸法記』の方が適当であろうか。なお、本図はそもそも二つの図からなっており、一つは「唐玻豊真正面之五はい坪天井圖」、もう一つは「唐玻豊左右之坪天井圖」である。

また、11-7の文字が異なる。両者を比較すると「横さん長八尺貳寸貳寸五分二貳寸貳分角桐油眞ぬり」が適当な文字列と思われる。『寸法記』の透写元の史料に誤植があったか、透写の際に一部の文字を写さなかった可能性がある。一方の『絵図帳』でもカタカナの「二」を書き忘れた恐れがある。その他 11-7 には、「かく」を「角」とする違いがみられる。

〔表 7〕 図番号 11 の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
11-1	唐玻豊真正面之五はい坪天井圖	唐玻豊真正面并五はい坪天井圖
11-2	横さん長壹丈壹尺七寸二貳寸貳分角桐油眞塗	横さん長壹丈壹尺七寸二貳寸貳分かく桐油眞ぬり
11-3	板間高七寸四分四り横八寸貳分三り桐油朱ぬり	板間高七寸四分四り横八寸貳分三り桐油朱ぬり
11-4	立さん長六尺二貳寸貳分かく桐油眞塗	立さん長六尺二貳寸貳分かく桐油眞ぬり
11-5	唐玻豊左右之坪天井圖	唐玻豊左右之坪天井圖
11-6	立さん長六尺二貳寸貳分かく桐油眞塗	立さん長六尺二貳寸貳分かく桐油眞ぬり
11-7	横さん長八尺貳寸貳寸貳分かく桐油眞塗	横さん長八尺貳寸五分貳寸貳分角桐油眞ぬり
11-8	板間高七寸四分四り横八寸貳分三り桐油朱ぬり	板間高七寸四分四り横八寸貳分三り桐油朱ぬり

図番号 12 下庫理差圖 [右]

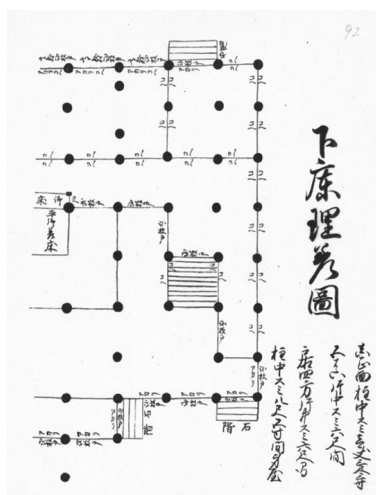


図 13 図番号 12-1 『寸法記』

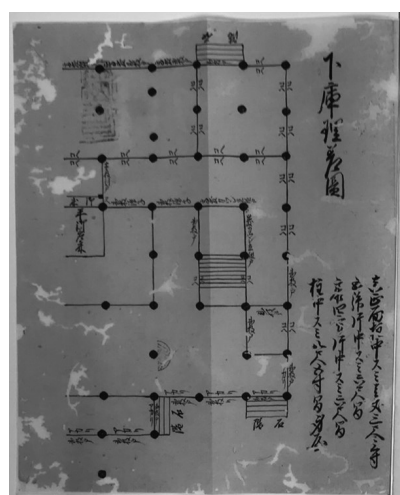


図 14 図番号 12-2 『絵図帳』

〔絵図の比較〕

『寸法記』(図 13)と『絵図帳』(図 14)の2枚の図を重ね合わせて確認したところ、

両者の構図はほぼ同じであるが、『絵図帳』（図 14）の方が上下の柱の間隔が僅かに広く、両図の柱の位置は完全には重ならないことが明らかとなった。おそらくそれぞれの図が透写した原図の柱の間隔が異なっていたためであろう。両者の図には相違点もあり、『絵図帳』（図 14）では中央部の階段そばに「高敷カウシ立組戸」（2 か所）と左側の御床に隣接して「壺枚引戸」が線で描かれているが、『寸法記』（図 13）には見られない。また、中央部分の階段が『寸法記』（図 13）では 10 段であるが、『絵図帳』（図 14）では 8 段であらわされている。下側中央の「石階」は『寸法記』（図 13）では 4 段、『絵図帳』（図 14）では 3 段で示されている。

〔文字の比較〕

ほぼ文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。ただし、『絵図帳』にのみ「高敷カウシ立組戸」（12-11）、「壺枚引戸」（12-12）という記載が見られる。これらは建築上の相違に基づく違いである。反対に『寸法記』にのみ「アカリコヘ」（12-6、図上部左側部分）と記載されている。この部分の壁の使い方や建築の変化が想定されるが、詳細は不明である。

〔表 8〕 図番号 12 の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
12-1	下庫理差圖	下庫理差圖
12-2	眞正面柱中スミ壺丈三尺三寸五はい片中スミ六尺間 扁四方片中スミ六尺間柱中スミ八尺五寸間身屋	眞正面柱中スミ壺丈三尺三寸五拜片中スミ六尺間 扁四方片中スミ六尺間柱中スミ八尺五寸間身屋
12-3	石階	石階
12-4	コヘ	コヘ
12-5	アカリ	アカリ
12-6	<u>アカリコヘ</u>	
12-7	式枚戸	式枚戸
12-8	高敷式枚戸	高敷式枚戸
12-9	御床	御床
12-10	平御差床	平御差床
12-11		<u>高敷カウシ立組戸</u>
12-12		<u>壺枚引戸</u>

図番号 13 下庫理差圖 [左]

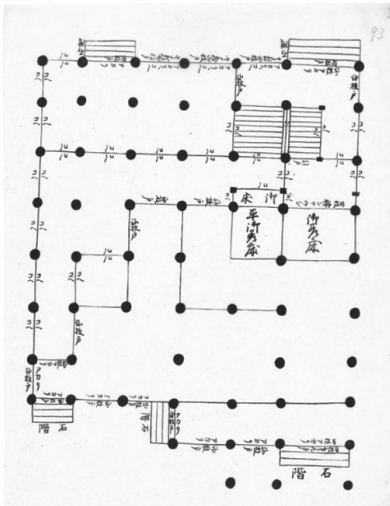


図 15 図番号 13-1『寸法記』

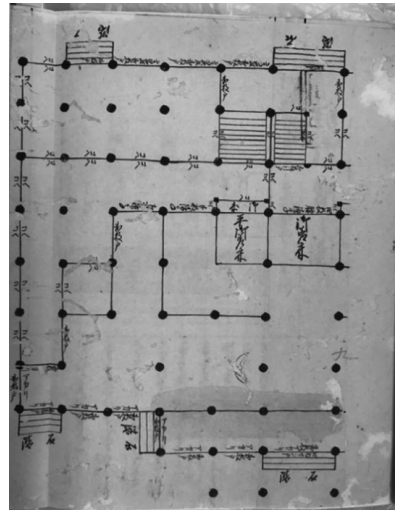


図 16 図番号 13-2『絵図帳』

〔絵図の比較〕

『寸法記』(図 15)と『絵図帳』(図 16)の2枚の図を重ね合わせて確認したところ、両者の構図はほぼ同じであるが、柱の間の長さが僅かに異なる部分があり、両図の柱の位置は完全には重ならないことが明らかとなった。両図に大きな相違はないが、下側中央の「石階」は『寸法記』(図 15)では4段、『絵図帳』(図 16)では3段であらわされている。なお、図番号 12 下庫理差図 [右] でも、対称位置にある「石階」が4段から3段へと変化しており、構造の変更を反映している可能性が高い。

〔文字の比較〕

一部の文字に漢字と仮名の違いがあるが、おおよそ文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。ただし、下庫理差図 [右] と同じように一部建築上の相違による記載の違いがある。とくに 13-14 は戸から障子への変更が見られ、13-15 では引き戸の表記が異なっている。また、御差床の上部右側は、両図での変化が大きい場所である。『寸法記』では「コヘ」と壁が設けられているのに対して、『絵図帳』では壁が描かれない。構造の変更が見られた可能性もあるだろう。

〔表9〕図番号 13 の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
13-1	弐枚戸	弐枚戸
13-2	四枚戸	四枚戸
13-3	コヘ	コヘ
13-4	弐枚アカリ	

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
13-5	<u>アカリニコヘ</u>	
13-6	高敷式枚戸	高敷式枚戸
13-7	石階	石階
13-8	四枚腰 <u>シヤウシ</u>	四枚腰障子
13-9	御床	御床
13-10	御差床	御差床
13-11	平御差床	平御差床
13-12	四枚アカリ	四枚アカリ
13-13	四枚さん戸	四枚サン戸
13-14	式枚 <u>戸</u>	式枚障子
13-15	引戸	式枚引戸

図番号 14 大庫理御差床真正面之図

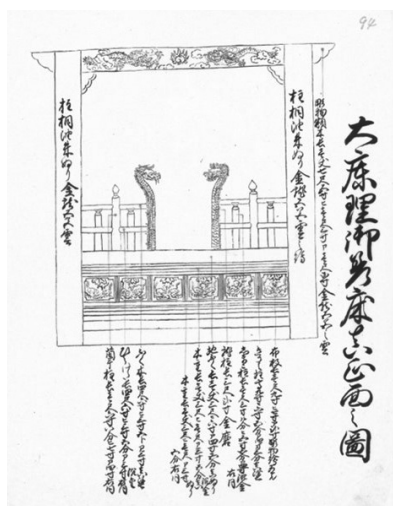


図 17 図番号 14-1 『寸法記』

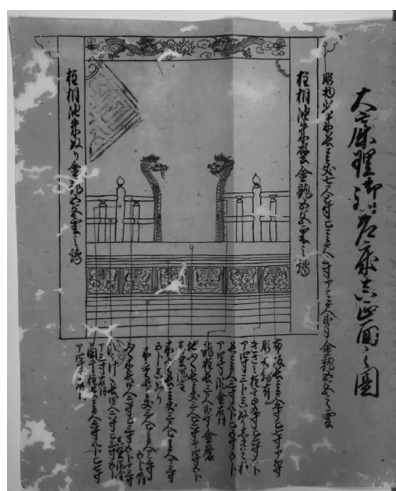


図 18 図番号 14-2 『絵図帳』

[絵図の比較]

『寸法記』(図 17)と『絵図帳』(図 18)の2枚の図を重ね合わせて確認したところ、両者の図の線がほぼ重なることが確認された。ただし、龍柱や文様の表現は、『寸法記』(図 17)のほうがやや精緻である。

[文字の比較]

一部の文字に漢字と仮名の違いがあるが、おおよそ文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。

ただし、図像左にある柱に記載されている文字(14-4)をみると、『絵図帳』にある「之

繪」という文字が『寸法記』には見えない。おそらく『寸法記』の記載忘れであろう。

また、14-6と14-7が分かれている『寸法記』に対して、『絵図帳』ではひとつとなっている。『絵図帳』は『寸法記』14-6と14-7が続けて書かれているが、『寸法記』ではそれぞれ別の箇所を示す内容となっており、14-6と14-7は別々の箇所に朱線が引かれている。

〔表 10〕 図番号 14 の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
14-1	大庫理御差床眞正面之圖	大庫理御差床眞正面之圖
14-2	彫物額木長壹丈七尺五寸幅壹尺三寸厚壹尺貳寸金龍五色之雲	彫物額木長壹丈七尺五寸幅壹尺三寸厚壹尺貳寸金龍五色之雲
14-3	柱桐油朱ぬり金龍五色雲之繪	柱桐油朱ぬり金龍五色雲之繪
14-4	柱桐油朱ぬり金龍五色雲	柱桐油朱ぬり金龍五色雲之繪
14-5	布板長壹尺九寸幅七寸厚貳寸彫繪有ル	布板長壹尺九寸幅七寸厚貳寸彫繪有ル
14-6	きさ之柱高九寸幅六寸五分厚四寸三分眞塗	きさ之柱高九寸幅六寸五分厚四寸三分眞ぬりしまこ柱
14-7	しまこ柱長壹尺三寸八分幅五寸五分厚四寸沈金右同	長壹尺三寸八分幅五寸五分厚四寸沈金右同
14-8	龍柱長三尺貳寸金磨	龍柱長三尺貳寸金磨
14-9	地ふく長壹丈三尺幅六寸厚四寸五分眞ぬり沈金	地ふく長壹丈三尺幅六寸厚四寸五分眞塗沈金
14-10	木重長壹丈三尺幅壹尺厚三寸五分眞ぬり	木重長壹丈三尺幅壹尺厚三寸五分眞ぬり
14-11	木重長壹丈三尺幅壹尺厚三寸五分右同	木重長壹丈三尺幅壹尺厚三寸五分右同
14-12	ふく木長四尺六寸幅三寸五分厚三寸眞塗沈金	ふく木長四尺六寸幅三寸五分厚三寸眞塗沈金
14-13	ひらけた長四尺六寸幅三寸五分厚三寸右同	ひらけた長四尺六寸幅三寸五分厚三寸右同
14-14	蘭干柱長壹尺六寸八分幅七寸厚四寸右同	蘭干柱長壹尺六寸八分幅七寸厚四寸右同
14-14	蘭干柱長壹尺六寸八分幅七寸厚四寸右同	蘭干柱長壹尺六寸八分幅七寸厚四寸右同

図番号 15 同御側之圖

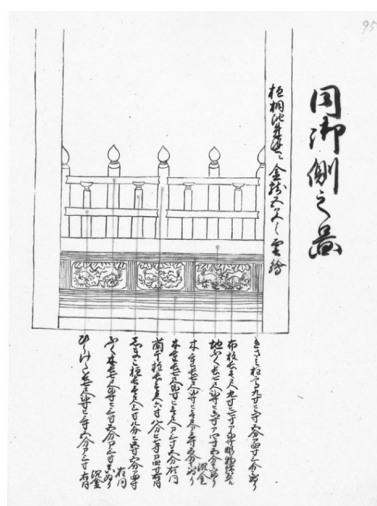


図 19 図番号 15-1 『寸法記』

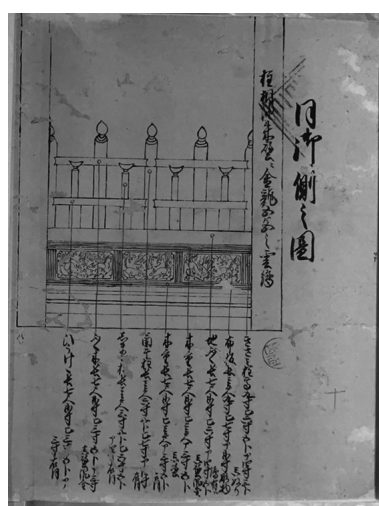


図 20 図番号 15-2 『絵図帳』

[絵図の比較]

『寸法記』(図 19)と『絵図帳』(図 20)の2枚の図を重ね合わせて確認したところ、両者の図の線がほぼ重なることが確認された。ただし、欄干の柱の高さが『寸法記』(図 19)の方がやや低く、柱の上の宝珠もやや大きくあらわされている。また、文様の表現は、『寸法記』(図 19)のほうがやや精緻である。

[文字の比較]

一部の文字に漢字と仮名の違いがあるが、おおよそ文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。

[表 12] 図番号 15 の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
15-1	同御側之圖	同御側之圖
15-2	柱桐油朱塗二金龍五色之雲繪	柱桐油朱塗二金龍五色之雲繪
15-3	きさ之柱高九寸二六寸五分厚四寸三分眞ぬり	きさ之柱高九寸二六寸五分厚四寸三分眞ぬり
15-4	布板長壹尺九寸幅七寸厚式寸彫物繪有ル	布板長壹尺九寸幅七寸厚式寸彫物繪有ル
15-5	地ふく長七尺貳寸幅六寸厚四寸五分眞ぬり沈金	地ふく長七尺貳寸幅六寸厚四寸五分眞塗沈金
15-6	木重長七尺貳寸幅壹尺厚三寸五分眞ぬり	木重長七尺貳寸幅壹尺厚三寸五分眞塗
15-7	木重長七尺貳寸幅壹尺厚参寸五分右同	木重長七尺貳寸幅壹尺厚参寸五分右同
15-8	蘭干柱長壹尺六寸八分幅七寸厚四寸右同	蘭干柱長壹尺六寸八分幅七寸厚四寸右同
15-9	しまこ柱長壹尺三寸八分幅五寸五分厚四寸右同	しまこ柱長壹尺三寸八分幅五寸五分厚四寸右同
15-10	ふく木長七尺貳寸幅三寸五分厚参寸眞ぬり沈金	ふく木長七尺貳寸幅三寸五分厚参寸眞ぬり沈金
15-11	ひらけた長七尺貳寸幅三寸五分厚三寸右同	ひらけた長七尺貳寸幅三寸五分厚三寸右同

図番号 16 大庫理御床之圖 [右]



図 21 図番号 16-1 『寸法記』

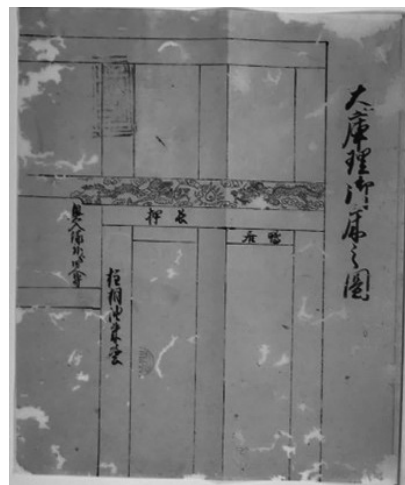


図 22 図番号 16-2 『絵図帳』

〔絵図の比較〕

『寸法記』（図 21）と『絵図帳』（図 22）の 2 枚の図を重ね合わせて確認したところ、両者の図の線がほぼ重なることが確認された。ただし、鴨居の厚さが『絵図帳』（図 22）の方が僅かに厚い。また、左側の柱から左方に延びる梁が、『寸法記』（図 21）では『絵図帳』（図 22）よりもやや細く、位置もやや上になっている。龍文などの表現は、『寸法記』（図 22）のほうがやや精緻である。

〔文字の比較〕

一部の文字に漢字と仮名の違いがあるが、おおよそ文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。ただし、11-6 の記載は『寸法記』のみに見られる。つぎの「図番号 17 大庫理御床之圖 [左]」に続く図のため、12-4 の記述を踏まえて検討する必要がある。後述する。

〔表 13〕 図番号 16 の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
16-1	大庫理御床之圖	大庫理御床之圖
16-2	鴨居	鴨居
16-3	長押	長押
16-4	柱桐油朱ぬり	柱桐油朱塗
16-5	奥入縁外より四尺貳寸	奥入縁外より四尺貳寸
16-6	ふち長壹丈	

図番号 17 大庫理御床之図 [左]

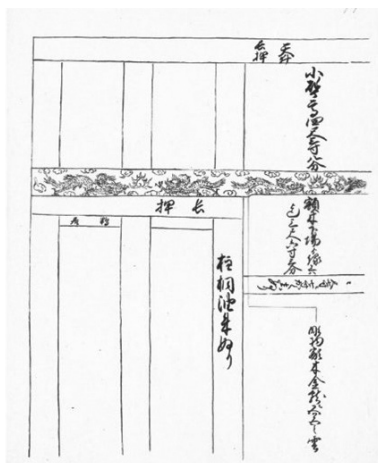


図 23 図番号 17-1 『寸法記』

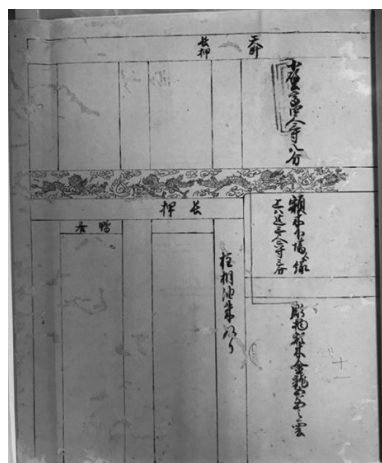


図 24 図番号 17-2 『絵図帳』

〔絵図の比較〕

『寸法記』（図 23）と『絵図帳』（図 24）の 2 枚の図を重ね合わせて確認したところ、両

者の図の線がほぼ重なることが確認された。ただし、鴨居の厚さが『絵図帳』（図 24）の方が僅かに厚い。また、右側の柱から右方に延びる梁が、『寸法記』（図 23）では『絵図帳』（図 24）よりも僅かに細い。龍文などの表現は、『寸法記』（図 23）のほうがやや精緻である。

【文字の比較】

一部の文字に漢字と仮名の違いがあるが、おおよそ文字記載のある箇所および意味の相違はみられない。ただし、17-4 の記載は『絵図帳』のみに見られる。前図に続く図であり、前図の同じ柱を描いた場所には『寸法記』のみに「ふち長壺丈」とあり、本図の「〈壺〉尺七寸二かく眞ぬり」に文字も続くのであろう。つまり「ふち長壺丈 〈壺〉尺七寸二かく眞ぬり」となるものと思われる。

〔表 14〕 図番号 17 の比較

文字番号	『寸法記』	『絵図帳』
17-1	天井長押	天井長押
17-2	小壁高四尺三寸八分	小壁高四尺三寸八分
17-3	額木下場より縁上ハ迄三尺六寸三分	額木下場より縁上ハ迄三尺六寸三分
17-4	<u>〈壺〉尺七寸二かく眞ぬり</u>	
17-5	彫物額木金龍ニ五色之雲	彫物額木金龍ニ五色之雲
17-6	柱桐油朱ぬり	柱桐油朱ぬり
17-7	長押	長押
17-8	鴨居	鴨居

おわりに

今回の分析であらたに明らかになったのは、つぎの点である。

掲載図の比較については、『寸法記』と『絵図帳』の各図を重ねて検証した結果、両者の図の大部分の線が重なることが確認された。ただし、「下庫理差圖」（図番号 12,13）のような柱の位置を示した平面図の場合には、柱間の距離に差が見られ、図が完全に重なることはなかった。これは、両者が透写した元図の柱間距離が異なっていたためとも考えられるが、柱の位置を示す平面図の場合には、立面図に比べて正確に透写する必要性が低かった可能性もある。また、文様などの描写は『寸法記』の方が総じて緻密である。

文字情報からは、建築の差異によって記載されている内容が異なる点があったことが確認された。とくに「下庫理差圖」（図番号 12,13）には、『寸法記』に見られない戸などが『絵図帳』にあるなど、正殿の内部構造の変化が見られることが言えるだろう。表題に従うと『寸法記』が 1768 年、『絵図帳』が 1846 年の記録とされているため、その差を示しているものと思われる。

一方で、『寸法記』で 9-6 と 9-7 と別々の項目となっている箇所が『絵図帳』では同じ

場所に記載されている。これは実際の作業現場でおそらく『絵図帳』が使われなかったことを示すのではないだろうか。『絵図帳』は（おそらく『寸法記』も）正殿修築・建造の事後記録という性格を持つ史料であると思われる。

謝辞：本稿執筆にあたり那覇市歴史博物館の皆様、および関係者の皆様に調査へのご協力やご助言を得た。記して感謝を申し上げる。

Abstract

Foundational Studies on Maps and Diagrams related to Shurijo castle, part2

Shinichi ASO¹⁾, Tatsuya MORI²⁾

1) University of the Ryukyus 2) Okinawa Prefectural University of Arts

Two significant sets of drawings for the construction and reconstruction of the main building of Shurijo Castle are titled "Momo-urasoe Udun Fushin tsuki On-ezu narabini Gozaimoku Sunpo-ki" ("Sunpo-ki"; collection of the Library and Art Library, Okinawa Prefectural University of Arts.) and "Momo-urasoe Udun Gofushin Ezu-cho" ("Ezu-cho"; Shoke document No. 500, collection of Naha City Museum of History).

Since the two types of materials are similar in character, it is necessary to compare the illustrations and the textual information they contain, but detailed studies have not yet been conducted. Therefore, this paper compares these two types of materials, compiles basic data on pictorial materials related to Shurijo Castle, and examines Ryukyuan pictorial materials more broadly.

In the paper part 1("Foundational Studies on Maps and Diagrams related to Shurijo castle, part1" *Bulletin of Okinawa Prefectural University of Arts*, No.31, 2023), we compared 5 pages of the illustrations and the textual information. Then in this paper (part2), we compared 12 pages.

Through this examination, the following points were confirmed. First, the text information has some different places, which indicate differences in architectures between 1768 and 1846. Second, these two sets of drawings were post-completion records of the construction and reconstruction of the main building of Shurijo Castle.

